



UIFAニュース

発行 宇治市国際親善協会

事務局 〒611-8501 宇治市宇治琵琶33 宇治市役所秘書課内
電話 0774-22-3141(内線2058) FAX 20-8776
ホームページ <http://uifa.news.coocan.jp>第69号
平成26年(2014年)3月

咸陽市へ公式訪問

平成25年度宇治市咸陽市公式訪問団（市民訪問団8人、行政訪問団5人、団長・木村幸人宇治市副市長）は、友好都市盟約締結27年目を迎えた中国咸陽市との友好を深めるため、11月11日から14日まで同市を訪問しました。

歓迎式典の出席をはじめ、多くの市民の皆さんのご支援・ご協力のもとに進めてこられた黄土高原植林緑化事業地「宇治友好の森」や、国際ソロブチミスト宇治の皆さんのが中心となって図書館を建設された「永平小学校」などを見学し、27年にわたる交流の歴史を振り返りながら交流を深めました。

当協会から派遣した市民訪問団員は、咸陽市を離れてから18日までの日程で、杭州・上海を視察しました。市民訪問団員として参加されましたお二人からお寄せいただきました訪問記をご紹介します。



出 会 い

市民訪問団員 中 村 能 子

マイクを片手に青年ガイドは流暢な日本語で語り始めました。「日本のみなさん、おはようございます。ようこそ中国へ。今、両国の間では、いろいろな問題が起きています。このような時、ひょっとしてお見えにならないのではと心配しておりましたが、みなさまのお顔を拝見できて大変うれしいです。わたしは4日前に24人の中国人と北海道へ参りましたが、日本の人たちの暖かい歓迎を受けて、楽しい旅を終えることができました」。ガイドの偽りのない気持ちに心動かされました。

彼は一般庶民の交流がいかに大切なことを2度口にしました。2度目は、バスの窓から杭州市の景色を眺めて、整然とした中に落ち着いた雰囲気と歴史を感じていた時でした。その言葉を聞いて、わたしは前日に訪問した咸陽市の永平小学校のことを思い出したのです。目の前の景色とは趣が違い、この学校は静かで鄙びた山村の中に佇んでいました。そこで、6年生の児童の授業を参観しました。きっとわたしたちの訪問を心待ちしてくれていたのでしょう。ぐるりと大人たちが取り囲む中で緊張していたにもかかわらず、担任の先生の問いかけには、大きな声で勢いよく手が上がります。また、木村訪問団長に次々と質問をするときのあどけなさは、宇治の子どもたちと少しも変わりありません。黒板に向かって右端の一番後ろに座っていた大柄な子は横顔をはにかませて、挙げかけた手を途中で止め、最後まで挙げきりませんでした。宇治市の小学校の授業参観でもこんな子を見かけるに違いありません。

今回の旅行では、大切なことは人々の「心のふれあい」だと決めていました。それゆえ、青年ガイドの日本語の上手さに及ばずとも少しは中国語が話せたなら、この教室の子どもたちともいっそう「深い出会い」ができたに違いない、「心のふれあう対話」ができたに違ないと悔しい思いがしました。半世紀を経てしまったとはいえ、学校で4年間中国語を学んだのに、何も話せない自分がいたのです。

それでも、わたしは、バスの後部座席を1人で陣取ったとき、たった1つ記憶に残っている歌を口遊んでいました。

在那遙遠的地方 有位好姑娘
 人們走過了她的毡房 都要回頭留恋地張望
 (はるか離れた そのまた向こう
 誰にでも好かれる きれいな娘がいる)

「親善」とは「親しんで仲よくすること」と、辞書にあります。中国の人々との親善が本来の目的であることは言うまでもありませんが、同行の方々とも出発前には名前と顔が一致しない今まであったのに、あっという間に無礼講の仲になっていました。

市役所で仕事をされている方々とも肩書などすっかり忘れて過ごし、身近な親善を深めることができました。

今回の「友好都市訪問」は「楽しかった」に尽きます。

こうして、先人が築いてこられた友好の歴史にわたしもささやかな1ページを加えさせていただきました。企画運営に携わってくださった多くの方々を含め、みなさまに謝謝！



チンブンカンパン

40年ぶりの中国語、珍聞漢文

市民訪問団員 奥山千松

「昼寝とか 悠遊自擲が 座左の銘」 定年退職後、昼寝だけが唯一無二の日課であったが、突然中国行を思い立った。中国ファンの知人が、市政だよりで募集していることを教えてくれて即応募。慌てて期限切れのパスポートを再取得し、何とか結団式に間に合わせたが、肝心の結団式は多忙ではなく、多忘のため欠席、最初から迷惑をかけてしまった。

高校時代から何年間か漢文が好きで、中国語も少しかじったことがあった。当時は文化大革命進行中、ようやく日中国交正常化がなされた頃で、一般人が往来することはなかった。私の勤め先は典型的な内需産業で、担当も法務だったので、漢文や中国への興味も関心も「青春の北京」や「アカシヤの大連」などとともに、すっかりセピアに色褪せ、兵馬俑のように埋もれてしまっていた。

綾小路きみまろさんの名調子を借りれば、「あれッから、ヨンデュウネン！」…… 初めて中国の土を踏んだ!!

咸陽市郊外の「宇治市友好の森」は、氷屋さんの鋸歯のような起伏の激しい山並みの上にあったが、大きく育っていて嬉しかった。永平小学校の授業参観では、親元から離れて寄宿している児童もいるとのことで、純朴で素直な印象を受けた。明るく大きく育って欲しい。

咸陽市人民政府での公式会見の後、歓迎夕食会が催された。小振りの杯に「白酒（パイチュウ=透明の強いスピリット）」を注ぎ、文字通り干杯、カンペイと飲み干しては「君ニ勧ム更に尽クセ一杯ノ酒」と迫られた。「日本では、白酒は桃の節句に幼い女の児でも飲みます。」と中国語で伝えて、大人（ターレン）の目を白黒させたかったのだが、私の語学力ではいかんともしがたく、「弁ゼント欲スレドモ已ニ言ヲ忘ル」何ともはや、とほほッ。《日中同字別心》

秦始皇帝陵を目の当たりにして、「史記の項羽本紀や淮陰侯列伝を読んだ→♪そんな時代もあったね♪」と、いつしか自分を笑（嗤？）ってしまった。ミュージアムショップに兵馬俑の第一発見者である楊會民さんが座っておられたので、日本語版の図録にサインをしていただいた。うん？十年後に鑑定団に出すよう遺言しておこう。お宝、オタカラ。

西安では、大慈恩寺で「玄奘三蔵の不東の故事」及び「井上靖の天平の甍に登場する留学僧の普照や鑑真和尚の東征」に想いを馳せて感慨深かった。書道の「碑林博物館」も時間があればもっと見たかった。長安の城壁はあくまで大きく、ここからシルクロードは長久広大な時間と空間に向かって伸びている。ロマンの道は世界に通ず。

杭州の西湖や水郷烏鎮は、風光明媚でまさに「濃粧淡沫総テ相宜シ」「江南ノ春」を思わせる心地よさであった。

上海は東京以上に発展しており、浦東新区は未来都市であった。リニアモーターカーにはしゃいで乗った



が、咸陽で見かけた荷車牽引バイク（近いうちに軽トラ・バンに替わるハズだ。→ビジネスチャンス）との格差も気にかかった。交通マナーは??だが、規則に頼らず自分のことは自分で守って、まっしぐらに突進していく人々のパワーとエネルギーに、考えさせられることが多い旅でもあった。

末期高齢者になる前に、何れの日か黄砂に吹かれて「絲綢之路」を彷徨い歩き、葡萄の美酒を夜光の杯で飲まんと欲ス。謝謝謝!! じえじえじえ??

ヌワラエリヤ市 公式訪問団来宇

2014年1月21日▶24日

宇治市の友好都市スリランカ・ヌワラエリヤ市からマヒンダ・ドダンペガマゲ市長を団長に8人の公式訪問団が、6年半ぶりに1月21日（火）から24日（金）までの日程で来訪されました。

マヒンダ市長は、「日本もスリランカも共に仏教の国。お互いを敬い合う気持ちは同じ。共に発展し、友好が広がることを願っている」と挨拶されました。

訪問団一行は、宇治市役所や宇治黄檗学園、植物公園、源氏物語ミュージアムへの訪問のほか、市営茶室「対鳳庵」でお茶の接待を受けたりなど、宇治のまちを楽しんでいただきました。



市民交流ロビーにて歓迎式典を開催



お箸の持ち方を練習



植物公園にて



宇治黄檗学園にて歓迎セレモニー



源氏物語ミュージアムにて

ヌワラエリヤ市公式訪問団来訪記念

来宇を記念して、宇治市役所1階のロビーで「ヌワラエリヤ市写真展」を、また市役所8階食堂では、スリランカチキンカレーが提供され、すぐに売り切れるという大盛況ぶりでした。さらに、1月23日には宇治市生涯学習センターで国際交流講演会「日本とスリランカの友好関係」を開催。在大阪スリランカ民主社会主義共和国名誉総領事館のD.W.アルッガマゲ名誉総領事がスリランカの魅力を語られました。



宇治市の友好都市カナダ・カムループス市のトンプソン・リバーズ大学で市民留学生として学ばれ、多くの市民の方々と友好を深めてこられた福林歩美さんと大門愛里奈さんから、留学体験をお寄せいただきました。

カムループス留学記

平成25年度市民留学生 福林歩美

カムループス留学、それは私にとって新たな人生のスタートをきったかのように感じた濃い思い出が詰まった9か月間となりました。長期留学はこのカムループスという地が初めてだったので、ワクワク、そして不安な気持ちを抱えながら日本を出発し、いざカムループス空港に着くとホストファミリーが花束を持って迎えてくれました。緊張と不安は一気に吹き飛びホストファミリーとの楽しい生活が始まりました。毎日美味しい料理、楽しい会話、様々なアクティビティを共に楽しみ、英語力向上にも協力してくれ、本当に快適で充実した4か月間を送ることが出来ました。また私にはタイ出身のルームメイトが居たので、文化、言語、料理などタイと日本の文化交流もでき、時には助け合い支え合い、ルームメイトでありながら今でも連絡を取り合うほどの仲です。そして秋学期になると寮に移り、私含め4人のルームメイトと5か月間生活を共にしました。国籍も全員バラバラでしたが、一緒にご飯を作ったり旅行に行ったり、ルームメイトに恵まれ、会話が絶えない本当に楽しい寮生活を送ることが出来ました。学校では語学学校からスタートし、秋学期になると大学の授業を取りました。日本の大学の授業形式とは全く異なり、ディスカッションやプレゼンテーションが多く、自分の意見を強く持ち、主張し説得させるかが重要視される授業の中で、積極的に発言し参加していくことがいかに大切か、9か月間の学校生活を通して学び、初期の頃と比べると、そういう点において成長したなど実感することが出来ました。そして、イベントやアクティビティ、ボランティアに積極的に参加し、沢山の人々に出会い友達の輪もぐんと広がりました。カナダは様々な国からの留学生が多いので異文化交流を楽しめました。例えばヨーロッパの国々、南米、タイ、カンボジア、アジア、ロシア、アフリカの友達と文化について話したり、一緒にご飯を作り合ったり、伝統的な服を着せ合ったり、本当に貴重な経験をすることが出来ました。彼らに出会えたことで視野が広がり、さらに世界の文化や現状問題などを知るために将来訪れたいと思う国が沢山増えました。そして何より9か月間の長い様で短い留学生活、これだけ充実したものになったのは、周りの人々に恵まれたおかげです。留学はただ楽しいだけではなく、英語を使う環境の中での生活は必ず困難にも遭遇します。そんな時カナダ人の親友、ルームメイト、出会った沢山の友達に支えてもらい乗り越えることが出来ました。そして自分の目標や夢に向かい頑張っている友達に会えたことで、刺激、勇気を貰い、私も色々なことに挑戦し目標に向かって頑張りたいと強く思うようになりました。



年齢、国籍、性別関係なく、このような人たちと互いに刺激し合い、どんな時も切磋琢磨できた日々を誇りに思います。どこにいても、出会った人々とこれからもずっと繋がっていくと信じ、この留学経験を活かし新たに人生を再スタートさせたいと思います。このような貴重な機会を与えて下さった宇治市の皆様に本当に感謝しています、ありがとうございました。国際化が進む中、留学中に吸収してきたことを元に、美しい宇治の魅力を世界に発信する、そんな大きな目標を掲げて頑張りたいと思います。



大きな一步。

平成25年度市民留学生 大門 愛里奈

「何かを変えたい。変わりたい。」そんな漠然とした想いがきっかけでした。そんな時に母の薦めで市民留学生のプログラムを知り、応募しました。語学だけでなく、「今の自分と向き合い、見つめなおすこと」を目標に留学しました。

カナダでは、ホームステイをしながら毎日トンプソンリバーズ大学の留学生コースに通いました。授業はレベルごとの少人数制で行われ、クラスには中国・サウジアラビア・タイなど世界各国の留学生がいました。どの授業も先生方は生徒と同じ立場で気さくに話してくれるので、英語の苦手だった私でも楽しく進んで勉強することができました。学校では、毎日の宿題と定期的な小テストやプレゼンテーションなどがあります。少しずつ難易度も高くなり忙しくなりましたが、ホストファミリーや友だちに教えてもらいながら一つずつ乗り越えることができました。

カナダでの生活が1か月を過ぎた頃。「もっと話したい。わかりたい」という気持ちが芽生えてき、そればかりが先走り焦りました。そこからだんだんと「自分自身の英語スキルが足りていないからできない」とスランプ状態に陥り、「日本に帰りたい」と思いました。なかなか相談できず悩んでいましたが、勇気を出



してホストファミリーに心境を打ち明けました。すると、「気持ちはよくわかるから、何も心配しないでいいよ」と言って抱きしめてくれました。心のつかえがスーっとなくなり、今まで以上にホストファミリーに対して素直に接することができ、さらに良い関係を築くことができました。特に2歳の女の子とは絵本を読んだり、砂遊び、追いかけっこなどたくさん遊び、毎日夜ご飯の後には家族みんなで散歩に行きました。

カナダでの生活は全てが初めてで楽しいことだけでなく、苦しいこともたくさんありました。しかし他の国の人から見ての日本人、自分自身のこと、家族や友だちについていろんな発見があり、今までと考え方も変化しました。期間は4か月と短かったですが、私の中で濃くて忘れる事の出来ない大切な時間になりました。

帰国してからの4か月は留学の経験を通して、もう一度自分自身のこれからについて見つめなおしました。今まで海外は好きだけれど英語は苦手で逃げていましたが、現地でたくさんの人たちと関わり英語に触ることで克服することができました。なので「もっと英語を習得したい。使いこなせるようになりたい」、その想いから、この春から英語の専門学校への入学を決意しました。この決断をするまでに悩み、時間もかかりましたが家族・友だち・先輩、いろんな方にアドバイスをもらい決断することができました。何より、私が帰国してから決断するまでの4か月間、私を攻めることなく暖かく見守り「新しい道を応援する」と言ってくれた家族に感謝の気持ちでいっぱいです。

留学は楽しいだけではなく辛いものもありましたが、私に決断する勇気をくれました。きっかけは些細なことでしたが、この経験が私の人生の大きな一歩になりました。このことから、「何かを変えたい、変わりたい」と想っている人たちは是非このプログラムを利用してほしいです。



**5月10日
開催**

国際交流講演会 「森と湖 サウナの国 フィンランド」

来る5月10日（土）に宇治市生涯学習センターで、平成26年度宇治市国際親善協会の総会を開催いたします。また総会の開催に先立ち、恒例の「国際交流講演会」を実施いたします。

今回は、宇治市在住のフィンランド人、エーバ・ペウフクリネンさんにお国の話を伺います。彼女は、1980年に教会のミッショナリーとして来日、京都で2年間を過ごしたあと、宇治に赴任され、その後32年間ずっと宇治で活動、特に子供たちの健全育成に関わってこられました。また3年前に起きた東日本大震災以降、被災者の方々の心を癒すために、彼女の得意な手作りケーキと美味しい宇治茶を両手に抱えて、既に15回以上ボランティアとして被災地を訪れておられます。

フィンランドといえば、誰もが知っているサンタクロースの住んでいるラップランド（KORVATUNTURI・コルバトウントゥリ）や、北で見られる幻想的なオーロラ、子供たちが大好きなムーミン谷のムーミンとその仲間、サウナと冷たくて澄んだ湖、いろいろなベリーを摘める深い森、豊かな自然、その反面、現代社会を象徴する携帯電話ノキアの技術や普及率の高さ、また世界一を誇る教育の質とその結果、などなど私たちの関心をひく話題でいっぱいです。

毎年フィンランドに里帰りして、故郷の変化を肌で感じているエーバさん、また仕事上世界中で開催される会議に出かけているエーバさんのグローバルな目を通して、30年前の日本と今の日本、その間に得たものや無くしたもの、日本の変わらぬよさなどについても語ってもらいます。



国際交流 講演会 「森と湖 サウナの国 フィンランド」

講 師	エーバ・ペウフクリネンさん（フィンランド出身）
日 時	平成26年5月10日㈯ 14:00～15:20
場 所	宇治市生涯学習センター第2ホール
定 員	先着70人 参加費 無料

※宇治市国際親善協会以外の方もご参加いただけます。

お誘いあわせのうえご参加ください。

※講演会終了後、宇治市国際親善協会総会を行います。

雑観雜感

カムループス市へ向かうエア・カナダの機上の人となったとき、様々な思いがよみがえった。

1994年、オールドタイマーサッカークラブが宇治市を訪れた。彼らの訪問を受け、親善交流試合を行い、ホストファミリーとして家族みんなで歓迎し、楽しく思い出深い日々を過ごした。

熱いハートを持った彼らに再び会える喜び、寒い冬の間も頑張った練習会、今度は一矢報いるぞという意気込み。広大なカナダの地への興味等、期待に大きく胸ふくらませていた。

もちろん今回の旅の目的は、カムループス市との親善と交流試合にあったのだが、私にとってはナイアガラの滝への観光にも興味があった。そしてようやくその地に降り立った時、そのスケールの大きさに圧倒された。雄大な大地に流れる水量、どう表現してよいのか言葉もでない大瀑布だった。ここを観ただけでも、カナダの自然のふところの大きさを感じ取る事ができ、時間を掛けても訪れるだけの価値があると痛感した。

交流試合においては、2日間で4試合というハードスケジュールとなつたが、宇治市チームも練習を重ねてきたという自信もあり、また素晴らしい環境のもとで思いっきりプレーできる喜びも大きく、各チームと熱戦を繰り広げる事ができた。また、カムループス市滞在中は、チームの方々から本当に心のこもったもてなしを受けての感動の日々であった。（S・M）